

# 第七回 現代文芸論研究報告会

2022年11月5日(土) 14時〜

ハイフレックス開催

※ただし、一般の方はオンラインのみ(下記参照)

開会挨拶 藤井 光(東京大学)

14時〜14時5分

第一部 学位取得者による特別報告 司会 藤井 光(東京大学)

14時5分〜14時45分

坪野 圭介(和洋女子大学助教)

「遊園地と都市文学——アメリカン・メトロポリスのモダニティ(1893-1925)」

須藤輝彦(新潟大学・日本学術振興会特別研究員PD)

「たまたま、この世界に生まれて——ミラン・クンデラにおける運命」

第二部 研究報告 司会 柳原 孝敦(東京大学)

15時〜16時15分

池島香輝(東京大学大学院博士課程)

「境界を描く」——『椿の海の記』と『あやとりの記』を比較して」

コメンテーター 山田悠介(大東文化大学)

オウ・ジェームス(東京大学大学院博士課程)

「近代のヒストリカル・フィクション——ルカーチ『歴史小説論』と物語論を手がかりに」

コメンテーター 大橋洋一(東京大学名誉教授)

山内瑛生(東京大学大学院博士課程)

「ブリュッセルと文学カフェ——「ベルギー文化」創造は可能か」

コメンテーター 三田順(北里大学)

第三部 沼野充義『世界文学論』を読む 司会 阿部 賢一(東京大学)

16時30分〜18時

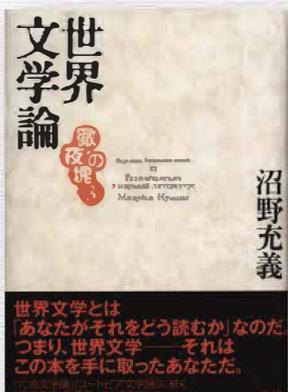
特別ゲスト 沼野充義(名古屋外国語大学教授)

コメンテーター

今井亮一(東京大学文学部助教)

安原瑛治(東京大学大学院博士課程)

ハビャン・ニーナ(東京大学大学院博士課程)



## 沼野充義

1954年、東京生まれ。東京大学名誉教授、名古屋外国語大学教授、日本ペンクラブ副会長。ロシア東欧文学を専攻するかたわら、世界文学論、文芸批評、翻訳(ロシア語およびポーランド語から)に携わる。1984年東京大学人文科学研究科単位取得満期退学、1981～85年ハーヴァード大学大学院スラヴ語スラヴ文学科にフルブライト給費留学生として留学(修士号および博士論文執筆資格取得)。2007年現代文芸論研究室を柴田元幸とともに創設、以後2020年の定年退職まで現代文芸論およびスラヴ語スラヴ文学の両方の研究室で教える。著書『徹夜の塊三部作』(『亡命文学論』『ユートピア文学論』『世界文学論』作品社)他、訳書ナボコフ『賜物』、レム『ソラリス』、『新訳チェーホフ短篇集』他。

閉会挨拶 柳原 孝敦(東京大学)

18時〜18時5分

登録方法:本研究会に参加を希望される方は、下記 URL よりご登録ください。登録後、ミーティング参加に関する情報の確認メールが届きます。

<https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/meeting/register/tZMkdeqopz4qGdR--vGpaNvfegLxXYUW-NMt>